

電気工事士技能試験判定員の追加募集について

一般財団法人 電気技術者試験センターは、電気工事士技能試験判定員の追加募集を次のとおり行います。

(1) 募集受付期間 令和6年3月8日まで

(2) 募集地区 地区は次のとおり

北海道	小樽市・札幌市・岩見沢市・恵庭市・千歳市・北見市近辺
東北	青森県、秋田県、福島県、新潟県
関東	茨城県(水戸市・日立市・土浦市・つくば市近辺)、 栃木県(宇都宮市近辺)、群馬県(高崎市・前橋市近辺)、 山梨県(甲府市近辺)、埼玉県、東京都、千葉県、神奈川県
中部	長野県(長野市近辺)、岐阜県(飛騨地方を除く)、静岡県、愛知県、 三重県(津市、四日市市近辺)
北陸	(本年の追加募集はありません)
関西	和歌山県(和歌山市近辺)、京都府(京都市近辺)、大阪府、兵庫県、 奈良県、滋賀県
中国	広島県、山口県、島根県、鳥取県、岡山県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州	福岡県(北九州市近辺・福岡市近辺)、 佐賀県(佐賀市近辺・鳥栖市近辺)、大分県(大分市近辺・別府市近辺)、鹿児島県 (奄美市)

(3)業務内容 電気工事士技能試験の判定業務

(4)勤務地 主に採用地区の技能試験会場

(5)勤務日 技能試験実施日(最大6日／年であるが地域により1日／年となることもある)、
研修日、その他当試験センターが必要と認める日

	技能試験実施日	試験種類
1	令和6年 7月 6日(土)	第一種電気工事士上期技能試験
2	令和6年 7月20日(土)	第二種電気工事士上期技能試験
3	令和6年 7月21日(日)	
4	令和6年11月24日(日)	第一種電気工事士下期技能試験
5	令和6年12月14日(土)	第二種電気工事士下期技能試験
6	令和6年12月15日(日)	

○研修日 1日(各地区の応募状況により実施日を決定します)

(6)手当 28,000円／判定業務1日当たり
研修受講者には、研修手当を別途支給します。

(7)旅費交通費 別途支給します。

(8)保険等 労働災害保険を適用します。
なお、当センターの加入している社会保険の対象にはなりません。

(9)応募資格 次の①から⑤の条件を全て満たす者(詳細はP4参照)

①	第一種電気工事士である者等、技能試験判定員の要件(電気工事士法施行規則第13条の7第3号)のうち、いずれかに該当する者
②	技能試験日当日、各地区の担当試験会場において技能試験判定員として従事できる者であって、当センターの研修を受講できる者
③	技能試験判定員業務に耐えうる健康を有する者(1年以上従事できる者)であって、満65歳位までの者
④	国家試験の技能試験判定員として相応しい人格を有し、守秘義務を遵守できる者
⑤	マイナンバーが記載されている、通知カード(コピー)、個人番号カード(表・裏ともコピー)、住民票の写し(個人番号が記載されているものに限る)のうち、いずれか1つを提出できる者(後日提出していただきます)

※勤務先によっては就業規則に「兼業禁止」「二重就業の禁止」を規定している場合がありますので、事前に勤務先に確認をしてから応募願います。

- (10)応募方法 当センターのホームページ「採用募集」又は以下の URL 技能試験判定員登録から、メールアドレスの登録、基本情報等の入力を行い、必要な応募書類の登録を行ってください。
<応募に当たっての個人情報につきましては、採用選考及び技能試験判定員選任業務以外の目的には利用しません。>

URL : <https://www.ecee-hanteiin.jp/login/signup>



※システムエラー等ある際は、(12)の問い合わせ先にご連絡ください。
※応募書類の不備等による連絡をさせていただく事があります。

- (11)選考方法 ①書類選考及び課題選考
※登録頂いた技能試験判定員登録マイページにて3月29日まで結果の通知を確認することが可能です。
②面接試験(面接選考)
面接試験の日程及び試験会場は、①の合格者に対し、4月上旬までに通知致します。
③研修会(研修選考)
研修会の日程及び試験会場は、上記②の結果通知の際に通知致します。
<選考のスケジュール・通知については、日程が前後する事があります。>

(12)問い合わせ先

問い合わせ先: 〒104-8584

東京都中央区八丁堀二丁目9-1(RBM東八重洲ビル8F)

一般財団法人電気技術者試験センター 試験業務部 高橋・南・前田

メール hantei@shiken.or.jp

電話 03-3552-7651

(平日 9:00~17:15(12:00~13:00を除く))

(13)一般財団法人 電気技術者試験センターホームページ

<https://www.shiken.or.jp/>

(注)技能試験判定員の要件(電気工事士法施行規則第13条の7第3号)は別紙のとおりです。

以上

技能試験判定員の要件

1. 技能判定員の要件（電気工事士法施行規則第13条の7第3号）

- イー1 学校教育法による大学若しくは高等専門学校において電気工学に関する学科を担当する教授若しくは准教授の職にあり、又はあった者
- イー2 学校教育法による専修学校の専門課程において電気工学に関する学科を担当する教員の職にあり、又はあった者
- イー3 教育職員免許法(昭和24年法律第147号)による高等学校教諭の専修免許状を有する者であって、学校教育法による高等学校において電気工学に関する学科を担当する教諭の職にあり、又はあった者
- イー4 電気工作物検査官の職にあり、又はあった者
- ロ 第1種電気工事士である者
- ハ 第2種電気工事士であって、電気工事に関する業務に5年以上従事した経験を有する者
- ニ 電気事業法第44条第1項第1号の第1種電気主任技術者免状、同項第2号の第2種電気主任技術者免状又は同項第3号の第3種電気主任技術者免状の交付を受けている者であって、電気技術に関する業務に5年以上従事した経験を有する者
- ホ 学校教育法による大学、高等専門学校、高等学校若しくは中等教育学校又は旧大学令による大学、旧専門学校令による専門学校若しくは旧中等学校令(昭和18年勅令第36号)による実業学校において電気工学に関する課程を修めて卒業し、かつ、電気技術に関する業務に5年以上従事した経験を有する者
- へ 職業能力開発促進法(昭和44年法律第64号)第28条による職業訓練指導員免許(免許職種が電気工事科であるものに限る。)を受けている者(平成5年3月31日までに免許職種が電気科の職業訓練指導員免許を受けている者及び同法附則第6条第1項の規定により職業訓練指導員免許を受けたとみなされた者(免許職種が電工であるものに限る。))を含む。
- ト イからへまでに掲げる者と同等以上の知識及び経験を有していると経済産業大臣が認める者

2. その他の要件

- ① 試験センターの指定する研修を受講できる者
- ② 技能試験判定員業務に耐えうる健康を有する者(1年以上従事できる者)であって、満65歳位までの者
- ③ 国家試験の技能試験判定員として相応しい人格を有し、守秘義務を遵守できる者
- ④ マイナンバーの写し等の必要書類を提出できる者

以上

(補足説明)

技能試験判定員の要件に該当する旨を証する書類について

○要件 イー1. 2. 3. 4に該当する場合の提出書類

各項目に該当する場合の提出書類は、以下のとおりです。

要件項目	提出書類
イー1	電気工学に関する学科を担当する教授若しくは准教授(旧:助教授)の職にある(あった)ことを証する学校長の証明書(コピー不可)または、同職の辞令等(写)
イー2	電気工学に関する学科を担当する教員の職にある(あった)ことを証する学校長の証明書(コピー不可) または、同職の辞令等(写)
イー3	電気工学に関する学科を担当する教諭の職にある(あった)ことを証する学校長の証明書(コピー不可) または、同職の辞令等(写)
イー4	電気工作物検査官の職にある(あった)ことを証する辞令等(写)

なお、イー3でいう教員職員免許法(昭和24年法律第147号)による高等学校教諭の専修免許状とは、旧法では下表右欄の免許状となり、高等学校教諭一級普通免許状がこれに該当します。

免許状の種類(平成元年4月1日以降)	免許状の種類(平成元年3月31日以前)
高等学校教諭専修免許状 ※高等学校教諭一種免許状は不可	高等学校教諭一級普通免許状 ※高等学校教諭二級普通免許状は不可

○要件 ロ、ニ、ホ、へに該当する場合の提出書類は、以下のとおりです。

要件項目	提出書類
ロ	第1種電気工事士免状の写し(電気工事士法第4条の3、講習受講記録欄を含む)
ハ	第2種電気工事士免状の写し及び実務経歴証明書(電気工事に関する業務5年以上)
ニ	第1・2・3種電気主任技術者免状の写し及び実務経歴証明書(電気技術に関する業務5年以上)
ホ	学校教育法による大学、高等専門学校、高等学校若しくは旧専門学校令または旧中等学校令による実業学校で電気工学に関する課程を修めた卒業証明書の写し及び実務経歴証明書(電気技術に関する業務(電気実習)5年以上)
へ	職業能力開発促進法第28条による職業訓練指導員免許(免許職種が電気工事であるもの)の写し